

指定校番号	30025	学級活動	○ 児童会活動	クラブ活動	学校行事
-------	-------	------	---------	-------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立十日市小学校	校長	坂田 邦彦	生徒指導主事	沖村 祐樹
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『主体的な児童会活動』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成	社会参画	自己実現
「協調性・柔軟性」	「主体性・積極性」	「高い志・使命感」
2	1	3

取組のねらい『キーワード 主体性・合意形成』

- 学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立てて役割を分担し、協力して運営することに自主的・実践的に取り組む態度を育てる。
- より良い学校にしていくために、児童が自分達の力で学校生活の課題を話し合い、合意形成を図り実践できるようにする。

取組の具体的な内容『キーワード 児童主導の児童会活動』

児童が主体的に活動できるよう、各委員会で話し合いながら取組を考えた。

自伸会執行部

- ・スケジュール表の作成
→取組内容の見える化
→見通しを持った行動
- ・教師も児童も客観的に評価しやすい
具体的な自伸会月目標の作成

美化委員会 ⇒トイレをきれいに使うための取組

- ・トイレの外に「シート」を置き、スリッパを揃えたら自分の名前を書く
→上位3名を自伸会朝会で表彰
- ・スリッパの下に涙顔や怒った顔の絵を貼り、きちんと揃えればこれらの顔が見えなくなる仕掛けを作った



スリッパが散らかっている状態



スリッパが揃っている状態

取組の課題・創意工夫『キーワード 教師の関わり方』

【創意工夫】

- 委員会活動発足時は教師が積極的に関わり、委員会活動の目的を説明したり児童がどんなことをやりたいのか引き出したりする。
- 児童が何か取組を考える際、できることとできないことの条件（期間、場所、使えるもの等）をあらかじめ教師が伝えておく。

【課題】

- 様々な取組を開始した当初は委員会担当の児童も低・中学年の児童も共に意欲的ではあるものの、時間が経つにつれてマンネリ化していき、意欲が薄れてしまった。その結果、教師主導で取組を進めてしまうことがあった。
- 「何か新しい取組をしたい」「みんなの興味を引くことをしたい」など方法論に走ってしまい、「どんな学校にしたいのか」「何のためにするのか」という取組の目的がブレてしまうことがあった。

取組の成果（効果）『キーワード 児童の意欲向上』

- 児童同士で話し合いを重ね、合意形成を図って取組を実践することができた。
- 児童会活動で取り組んだことを表彰したことで、児童の自己肯定感が高まった。
学校評価に関わる保護者アンケート
「わが子は楽しい学校生活を送っている」 7月 93% → 12月 94%
- 月目標を具体的な姿で示したことで、教師も児童も何を重点的に取り組めばよいのか明確になり、達成率を上げることができた。 月目標達成率 1学期…81.6% → 2学期…87%

今後の展開『キーワード 児童主体でも道筋は教師が』

今後も児童主体で児童会活動の取組を進めていくが、全て児童に丸投げするのではなく、常に教師が活動のねらいを確認しながら道筋を示していく。

他教科との関わり『キーワード 相互作用』

主体的に児童会活動に取り組むことを通して、児童会活動で経験したことが日々の学級生活に生かされ、学級や学校の生活をより一層充実したものにすることができる。また、学級活動や国語科等での話し合い活動を通して育成した力を、児童会活動での話し合いの場で生かすこともできる。